

首都大学東京大学院・理工学研究科

分子物質化学専攻

年 次 報 告

2 0 0 8

はしがき

2

17

18

2

19

21

18

19

第一部

化学教室活動状況

化学教室教室協議会規則

1

2

3

1

4

5

1

5

6

7

8

9

10

1965. 4. 20

1982. 11. 30

1987

2007. 7. 4

平成20年度化学教室研究室別名簿 (H20/4/4作成)

	無機化学	環境・地球化学	宇宙化学	有機構造生物化学	有機化学	生物化学	物性物理化学	分子集合系物理化学	反応物理化学	有機合成化学	理論・計測
教授	杉浦 健一 (3574)	伊永 隆史 (3446)	海老原 充 (3577)	伊藤 隆 (3538)	伊與田 正彦 (3542)	磯辺 俊明 (3535)	菊地 耕一 (3453)	加藤 直 (3435)	阿知波 洋次 (3448)	清水 敏夫 (3585)	波田 雅彦 ()
准教授	浅野 素子 (3565)	藤野 竜也 (3445)	大浦 泰嗣 (3562)	三島 正規 (3538)	西長 亨 (3541)		藤田 涉 (3452)	好村 滋行 (3455)	城丸 春夫 (3451)	佐藤 総一 (3584)	橋本 健朗 ()
助教	山下 健一	芝本 幸平 (3436)	篠塚 一典		高瀬 雅祥	田岡 万悟 (3523)	兒玉 健 (3442)	川端 庸平 (3454)	松本 淳	平林 一徳 (3573)	本田 康 (35)
D3		南條 大輔 (4221)	上田 祥久 (3577)		磯村 英吾 (3532)						谷村 景貴 () 松岡 登行 () 吉澤 輝高 ()
D2			黄 文松 (3576)	重光 佳基 (3537)	西内 智彦 (3531)		笹森 幸太 (3452)		後藤 基 (3451)		清野 淳司 ()
D1		須藤 理枝子 (677-8541)			大前 武士 (3533) 山川 純 (3533)			廣瀬 雄一 (3433)			
M2	久高 真実 (3567) 坪井 道洋 (3568)	小森 雄介 (3436) 名越 慶士郎 (3436) 山本 真由 (3436)	小岩 嘉隆 (3562) 伊佐 純子 (3562) 橋詰 二三雄 (3562) 長谷川 雅人 (3576) 日原 健 (3562)	安西 高廣 (3537) 佐藤 明子 (3537) 永井 義崇 (3537) 永江 峰幸 (3537)	田中 慶太 (3531) 藤井 美香 (3533) 本名 陽平 (3531)	今村 有紗 (3536) 大滝 英紀 (3536) 小笠原 美紀 (3442) 坂田 昌之 (3442)	名子屋 俊介 (3452) 大崎 邦彦 (3442) 小笠原 美紀 (3442) 坂田 昌之 (3442)	伊藤 真紀子 (3454) 田中 千香子 (3455)	中山 崇 (3447) 高水 直子 (3447) 山田 充子 (3451)	金 錦姫 (3572) 木村 慶輔 (3573) 小松崎 聖 (3572)	上杉 亘 (35) 三宅 伸尚 () 吉田 しおり
M1	秋田 康宏 冨塚 一仁	清水 伸幸 (3436) 古屋 大輔	田村 麻衣 (3576) 日高 義浩 (3576) 渡部 良 (3562)	金場 哲平 (3537) 土江 祐介 (3537) 浜津 順平 (3537)	石本 祥平 (3531) 館野 将輝 (3532) 成田 智幸 (3533) 宮田 敏彦 (3533)	松田 亮蔵 (3536) 井汲 真希 (3523) 谷 知美 (3523) 松久 雄広 (3523)	小島 正幸 (3453)	岡 真佐人 (3433) 篠田 知明 (3454) 嶋田 由佳	早川 謙一 (3451)	桑原 淳亮 (3572) 柴垣 一輝 (3573) 布施 宏倫 (3572) 新野 誠	小山 暁 (30) 木村 有輝 () 剣持 祐介 ()
B4	田口正晃 田澤 慎	庄司亮 林俊次 藤田隆史 松岡隆之 森永裕一	栗飯原はるか 伊佐美紀 大井誠 浜中芳文 鈴木智誠	川崎久美子 花島知美 三神すずか 岩崎亜衣 高橋 亜矢子	田畑知香 吉田尚文 林伝文 花井美実	浅川陽平 安達公祐 田中誠 堀口泰志	掛田 大輔 (3442) 内海けい 鈴木健一 山田康誠	峯岸麻美 村上彰 吉村隼人 福盛 翔	井上亮人 座間優 中太克映 大西侑気	田所憲 遠山陽平 水上真弓 舟橋洗	小柳 貴裕 () 小野雅史
客員教授 博士研究員 客員研究員 研究生 等		土屋 正彦 伊藤 正善 橋本 雅彦 (677-8641) 松山 正佳 (677-8641) 西出 龍弘 (677-8641) 増永 拓也 (677-8641) 根岸 貴幸 (677-8641) 中下 留美子 (3445) 原 健児 力石 嘉人 松本 公平 鈴木 彌生子 (3445)	小林 貴之 荘司 準 箕輪 はるか	Peter Guentert 池谷 鉄兵 小野 明 寺内 勉 土屋 征司 武田 光宏 吉田 均 菅沼 一樹 森脇 義仁	富澤 知志 (3531) 江野澤 英穂 (3533)	梶 裕之 齋藤 宗雄 新川 高志 山内 芳雄 (3547) 吉田 陽子 (3536) 延 優子 (3547)	藤井 政俊 山田 耕太郎 (3455)	鈴木 信三	新野 誠 (3573)	牛尾 二郎 () 阿部 穰里 () 山本 大輔 () 大樫 光太 () 清水 俊彦 ()	
秘書	倉光 千賀子 (3574)	小宮 愛子 (3446)	大浦 尚美 (3577)	倉光 千賀子 (3538)		向井 希美恵 (3535)		相澤 真理	星 晶子 (3448)		牛尾 洋子 ()

化学教室委員会委員

平成 20 年度・分子物質化学専攻内委員

GP

1

3

全学・理工学研究科等委員会委員

平成 20 年度全学理工学研究科委員

全学

理工学系・理工学研究科

(/)

人事異動 平成 20 年度

<採用>

20 6 1

<退職>

21 3 31

平成20年度 化学コース時間割

曜日	学年	1時限 8:50 10:20		2時限 10:30 12:00		3時限 13:00 14:30		4時限 14:40 16:10		5時限 16:20 17:50		学年	6時限 18:00 19:30		7時限 19:40 21:10	
月	1	1-301 都市教養Ⅱ(化学B)城丸(前) 1-110 都市教養Ⅱ(化学B)三島(後)						1-204 無機化学総論 杉浦(前) 1-204 分析化学Ⅰ 海老原(後)		6-213 基礎ゼミ 加藤(前)		1				
	2	11-103 物性化学Ⅰ 菊地(前)		11-101 構造物理化学Ⅰ 阿知波(前)		1-206 有機化学Ⅲ(基礎有機Ⅱ)西長(後)		11-103 分析化学Ⅱ 伊永(前) 11-103 有機構造解析[構造解析Ⅰ] 三島(後)				2				
	3	11-103 放射化学Ⅱ 大浦(後)		11-103 放射化学Ⅰ 海老原(前) 11-103 宇宙化学[地球化学Ⅰ] 海老原(後)		8-386, 387 化学専門実験Ⅰ(前) 8-386, 387 化学専門実験Ⅱ(後)						34				
	4	化学コロキウムⅡ(通年)(8-301-伊永・藤野, 8-307-阿知波・城丸, 8-304-加藤・好村, 8-302-菊地・藤田, 11-202-磯辺, 12-208-杉浦・浅野)				化学コロキウムⅡ(通年)(8-302-清水・佐藤)						5				
火	1	1-205 都市教養Ⅱ(化学B)伊藤(前)		1-206 都市教養Ⅱ(化学A)藤野(前) 1-208 都市教養Ⅱ(化学A)大浦(前) 1-206 都市教養Ⅱ(化学A)伊永(後)				1-110 一般化学Ⅰc[Aa]阿知波(前) 1-103 化学概説Ⅰa[Ib]清水(前) 1-101 化学概説Ⅰb[Ia]西長(前) 1-201 化学概説Ⅰb[Ia]佐藤(前) 1-301 化学概説Ⅰb[Ia]伊藤(前) 1-103 化学概説Ⅰa[Ib]伊藤(後) 1-110 化学概説Ⅰb[Ia]杉浦(後)		6-207 基礎ゼミ 浅野(前)		1				
	2							12-202 化学英語 Julian Kae(後)				2				
	3	11-103 物理化学演習(前)		11-103 化学熱力学Ⅱ 好村(前) 11-103 物性化学Ⅱ 藤田(後)		8-386, 387 化学専門実験Ⅰ(前) 8-386, 387 化学専門実験Ⅱ(後)						34				
水	1					8-385 化学実験 b / 自然科学実験 武蔵(前)						1				
	2	1-105 量子化学Ⅰ 波田(前) 1-105 化学熱力学Ⅰ 加藤(後)		1-104 生体物質化学Ⅰ 磯辺(前) 1-105 生体物質化学Ⅱ 磯辺(後)		12-101 有機化学Ⅱ(基礎有機Ⅲ)西長(前) 1-105 量子力学Ⅱ 波田(後)		6-208 基礎ゼミ 佐藤(前) 11-103 化学安全教育(前)				2				
	3			11-103 環境化学[地球化学Ⅱ]伊永・藤野(前)		8-386, 387 化学専門実験Ⅰ(前) 8-386, 387 化学専門実験Ⅱ(後)						34	8-386, 387 化学専門実験Ⅱ(通年)(4年生)			
木	1					1-101 一般化学Ⅰb[Ac]中田(前) 1-201 一般化学Ⅰb[Ba]藤田(後) 8-385 化学実験 c / 自然科学実験 武蔵(前) 8-385 化学実験 a(後)						1				
	2			12-105 無機化学各論Ⅰ 片田(前) 12-103 無機化学各論Ⅱ 浅野(後)		1-301 有機化学Ⅰ[基礎有機Ⅰ] 伊與田(前) 1-301 有機化学Ⅳ[基礎有機Ⅳ] 佐藤(後)		11-103 無機及分析化学演習(後)				2				
	3			11-103 生物化学Ⅰ 磯辺(前) 11-103 生物化学Ⅱ 小島(後)		8-386, 387 化学専門実験Ⅰ(前) 8-386, 387 化学専門実験Ⅱ(後)						34	8-386, 387 化学専門実験Ⅱ(通年)(4年生)			
金	1			1-350 情報リテラシーⅠ 大浦(前)				1-105 一般化学Ⅰa(Ab)阿知波(前) 1-101 一般化学Ⅱa(Bb)菊地(後)		1-104 物理化学初等演習Ⅰ(前) 1-104 物理化学初等演習Ⅱ(後)		1				
	2					8-385 化学実験 d / 自然科学実験(後) 11-201 有機及生物化学演習(後)						2				
	3			11-103 反応物理化学 城丸(前) 11-103 合成有機化学 清水(後)		11-103 錯体化学 杉浦(前) 12-208 理論化学概論[計算化学概論] 橋本(後)		11-103 反応有機化学[反応有機Ⅰ] 伊與田(前) 12-101 化学コロキウム[コロキウムⅠ](後)		11-103 化学熱力学ⅢⅡ*(後)		34				
	4					化学コロキウムⅡ(通年)(8-304-片田)				化学コロキウムⅡ(通年)(都)		(8-303-伊藤・三島, 8-302-伊與田・西長)				
								化学コロキウムⅡ(通年)(8-306-海老原・大浦)								

〔〕都立大講義名

斜体:都立大

平成20年度大学院授業時間割

首都大学東京 理工学研究科 分子物質化学専攻(2006年度以降入学者用)

()内数字は授業番号

	① 8:50~10:20		② 10:30~12:00		③ 13:00~14:30		④ 14:40~16:10		⑤ 16:20~17:50		⑥ 18:00~19:30		
	授業科目	教室	授業科目	教室	授業科目	教室	授業科目	教室	授業科目	教室	授業科目	教室	
月	化学特別セミナーⅡ(後) (R025) ○ 化学特別セミナーⅣ(後) (R031)		8-302 菊地・藤田	化学特別セミナーⅠ(前) (R062) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R066)	II(後) (R071) IV(後) (R074)	8-302 清水・佐藤							
			化学特別講義Ⅱ(前) (R615) (物性物理化学)	8-302 菊地・藤田									
	化学特別セミナーⅠ(前) (R004) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R012)		II(後) (R024) IV(後) (R029)	8-304 加藤・好村									
	化学特別セミナーⅠ(前) (R007) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R015)		II(後) (R022) IV(後) (R030)	8-301 伊永・藤野			化学特別セミナーⅠ(前) (R079) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R082)	II(後) (R089) IV(後) (R092)	11-201 波田・橋本				
	化学特別セミナーⅠ(前) (R005) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R013)		II(後) (R021) IV(後) (R033)	11-202 磯辺	化学特別セミナーⅠ(前) (R061) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R065)	8-307 阿知波・城丸							
	化学特別セミナーⅡ(後) (R023) ○ 化学特別セミナーⅣ(後) (R032)			8-307 阿知波・城丸	化学特別セミナーⅠ(前) (R006) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R014)	8-301 菊地・藤田							
	化学特別セミナーⅠ(前) (R444) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R448)		II(後) (R451) IV(後) (R455)	12-209 杉浦・浅野									
火			化学特論Ⅱ(後) (R155) (核宇宙化学)	8-302 海老原・大浦	化学特論Ⅵ(前) (R170) ○ (凝縮系の物理化学) (R172)	11-103 加藤・菊地 好村・藤田							
			イノベーションの科学 (R147) ○ (前) (R151)	12-101 伊永	物理化学特別講義Ⅰ (R614) ○ (物性物理学特論Ⅰ)(後a) (R565)	8-301 青木							
			物理化学特別講義Ⅱ (R146) ○ (原子物理学)(前) (R150)	11-302 田沼									
水			化学特論Ⅲ(前) (R232) (有機化学特論)	11-201 伊与田	化学特別講義Ⅱ(前) (R540) ○ (分光化学Ⅱ) (R787)	8-302 藤野・浅野	情報数理科学特論(後) (R265) ○ (R266)	11-102 後藤	化学英語特論(後) (R198)	8-302 Julian Koe			
			物理化学特別講義Ⅱ (R234) ○ (物性物理学Ⅰ)(前) (R235)	11-102 堀田	化学特論Ⅳ(後) (R242) (現代生命科学)	8-302 磯辺・伊藤							
					物理化学特別講義Ⅰ (R541) ○ (物理実験学特論Ⅰ)(後b) (R788)	8-304 宮原							
木	化学特論Ⅴ(後) (R285) ○ (分子物性化学) (R287)	11-101 城丸	化学特論Ⅶ(前) (R295) ○ (分子の理論と計算) (R297)	11-201 波田・橋本						化学特別講義Ⅱ(後) (R396) (分子設計学)	11-103 杉浦		
金	化学特論Ⅰ(前) (R408) (無機化学)	8-302 片田・杉浦	化学特別講義Ⅱ(前) (R414) (有機反応論)	8-300 伊與田	化学特別セミナーⅠ(前) (R426) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R429)	II(後) (R434) IV(後) (R437)	8-304 片田	化学特別セミナーⅠ(前) (R461) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R463)	II(後) (R465) IV(後) (R467)	8-303 伊藤・三島			
			化学特別講義Ⅱ(後) (R422) (有機構造論)	8-300 伊與田・西長	化学特別講義Ⅱ(後) (R433) (量子化学)	8-307 阿知波		化学特別セミナーⅠ(前) (R443) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R447)	II(後) (R450) IV(後) (R454)	8-302 伊與田・西長			
							化学特別セミナーⅠ(前) (R442) ○ 化学特別セミナーⅢ(前) (R446)	II(後) (R452) IV(後) (R456)	8-306 海老原・大浦				
土													
集中授業	化学特別実験Ⅰ(通年) (R500) 化学特別実験Ⅱ(通年) (R501) ○ 化学特別実験Ⅲ(通年) (R521) ○ 化学特別実験Ⅳ(通年) (R522)		I A(前) (R401) II A(前) (R595) ○ III A(前) (R630) ○ IV A(前) (R639)	I B(後) (R590) II B(後) (R599) ○ III B(後) (R635) ○ IV B(後) (R731)	各教員 各教員 各教員 各教員		放射線実験法Ⅰ(前) (R516) ○ (R716) 放射線実験法Ⅱ(前) (R517) ○ (R717)	12-101 片田 R棟 片田	化学学外体験実習 ○ 化学特別講義Ⅰ ○				

注意: ○印は博士後期課程の授業

在学者数 平成 20 年度

20 3 16

	48	46	45	45		184
A				18		18
B					2	2
						204
	30	34				64
		1				1
						65
	4	6	3			13
			3			3
						16

進路状況 平成 20 年度

20 3 16

1. 44

5	{	2
		2
27	{	23
		3
		1
		0

5	{	2
		2
27	{	23
		3
		1
		0

2. 32

5	{	2
		2
27	{	23
		3
		1
		0

3. 2

2	1
	1

大学院集中講義・外部非常勤講師

<大学院集中講義>

I

I

I

I

I

I

RNA

I

I

I

-

-

<外部非常勤講師>

b

c

d

VI

学位授与 平成 20 年度

<学士>

無機化学

宇宙化学

CK
HED Dho275, NW1929

³⁶Cl

環境・地球化学

MLDI

同位体化学

(III)

III)

有機化学

3, 4

有機合成化学

[3+2]

2

有機構造生物化学

In-Cell NMR

NMR

NMR

in vivo
SHARP

SMRT

生物化学

Criz-1

ES

Schizosaccharomyces pombe
colicinE3

RNA

SDS

LC-MS

物性物理化学

MDHTIP

(BDA-TIP)₂I₃

La Y

Ba@C₇₄

分子集合系物理化学

反応物理化学

NiCo

SMRT

理論・計算化学

(+)-(S,S)-bis(2-nethylbutyl) telluride CD

SAC-CI

<修士>

無機化学

宇宙化学

SELENE

K, Th, U

Dvnoe

Gibeon

⁵³Mn ³⁶Cl

⁵⁵Mn

環境・地球化学

MLI-M

15

同位体化学

6 9 12

TIF

有機合成化学

有機構造生物

NMR

Tar

NMR

RecO

Rho

PH

NMR

NMR

MBF1

生物化学

LC-M

RNA

Punil i o1

14-3-3

物性物理化学

TIP

1-13

- MDH TIP) ₄I₃ -

C₆₀

分子集合系物理化学

/

QCM

反応物理化学

8

ESI

LDI

理論・計算化学

Na-

<課程博士>

環境・地球化学

理論・計算化学

<特定領域研究>

In-Cell NMR

<基盤研究等>

	B		
	B		
	B		30
(B		
	B		
	C	-	
	B		
	A	ES	
	C		
	B		
/	B		
	C		

その他の研究助成 平成 20 年度

<首都大学東京>

<学外>

(JST)

()

CREST

2008

20

()

RNA

CREST

()

CREST

CREST

国際会議の開催、および組織委員としての活動 平成 20 年度

1. 71

20 7 27 8 1

2. FNCA Workshop on Neutron Activation Analysis

20 10 16 10 20 Chairman "Current activities and ongoing plans of NAA
in Japan"

RRR 2008/9

2008 1 27 29

14th International Conference on the Physics of Highly Charged Ions 08 9 1-5

Local Organizing Committee

rice for verifying its geographical origin”

- 2 The 6th International Conference on Applications of Stable Isotope Techniques to Ecological Studies, 2008/8/25 – 2008/8/29, , Y. Suzuki, R. Nakashita, F. Akanatsu, and T. Korenaga, “ Geographical origin of beef based on bulk carbon, nitrogen, oxygen and fatty acid hydrogen isotope analyses”
- 3 The 6th International Conference on Applications of Stable Isotope Techniques to Ecological Studies, 2008/8/25 – 2008/8/29, , F. Akanatsu, Y. Suzuki, R. Nakashita, T. Korenaga, “ Carbon and oxygen stable isotopes of rice as proxy parameters for changes in rice production with climate warming”
- 4 The 15th International Conference on Flow Injection Analysis including related techniques, 2008/9/30 – 2008/10/1, , Takashi Korenaga, “ Characterization of Diffusion and Mixing Phenomena in Microfluidic FIA Systems”
- 5 The 4th International Symposium on Isotopomers, 2008/10/4 – 2008/10/8, , M. Yanamoto, Y. Suzuki, R. Nakashita, T. Ichimiya, F. Akanatsu, and T. Korenaga, “ High sensitive detection of ^{15}N labeled amino acids in crops by GC/IRMS”
- 6 The 4th International Symposium on Isotopomers, 2008/10/4 – 2008/10/8, , R. Nakashita, Y. Suzuki, T. Korenaga, T. Okano, T. Konatsu, H. Hayashi, M. Yoh, and T. Tsubota, “ A study by carbon and nitrogen stable isotopes on the turn over time of hair and serum in Asiatic black bear”
- 7 The 4th International Symposium on Isotopomers, 2008/10/4 – 2008/10/8, , T. Ichimiya, R. Nakashita, Y. Suzuki, F. Akanatsu, and T. Korenaga, “ Application of stable isotope analysis to verify the authenticity of beef”
- 8 Focus On Microscopy, 2008/4/13 – 2008/4/16, , T. Fujino, “ In-cell Viscosity Measurements by Femtosecond Fluorescence Up-conversion Microscopy”

1 2nd International Nuclear Chemistry Congress 2008 4 13 – 18
Metallofullerene Encapsulating ^{225}Ac .

2 Workshop on utilization of research reactors 19 10 – 29
Solar system abundance of the elements

1 23rd International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur ISOCS-23 , 2008 6 29
7 4 , , Electroactive Supramolecular Architectures Based on TTF
Dimer

2 The 8th International Symposium on Functional -Electron Systems F 8 , 2008 7 21
25 , , Multi-Functional -Conjugated Giant
Thienylene-Acetylene-Ethylene Microcycles

3 The 7th Korean Conference on Innovative Science and Technology KCI ST2008 , 2008 10 19

21 , , Functional Nanoscopic and Mesoscopic Architectures of Self-Assembled Organic - Donors

1 23rd International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur (ISOCS-23) 2008 6 29 7 4 Synthesis, Structure, and Complexation Behavior of Unsaturated Chalcoacrocrown Ethers

1. XXIIIth ICMBS San Diego USA H2O 8 24-29 , Investigating protein three-dimensional structures inside living cells by in-cell NMR spectroscopy

1. MESA 2008 (17th International Meeting of Methods in Protein Structure) 2008 8 25 8 29 Development of RNA Mass Spectrometry for Ribonucleoproteomic Analysis

International Symposium on Engineering Micro-/Nano-Materials Based on Self-Assembling and Self-Organization (ISEM2008) 20 3 3 5 , Structural Transition Induced by Shear Flow and Temperature Variation in the Lamellar Phase of Nonionic Surfactant/Water Systems (Invited)

17th International Symposium on Surfactants in Solution 8 18 22 , Lamellar-To-Onion Transitions with Increasing Temperature under Shear Flow Studied by Rheo-SALS and Rheo-SAXS

1 213th ECS Meeting 08 5 18-22 Phoenix, Arizona, U.S.A “ Selective growth of fullerene cap structure in the formation of carbon nano structures” (Invited)”

2 The 5th Japan-Korea Symposium on Carbon Nanotubes, 08 11 9-12 Busan, Korea , “ Chirality control and production of SWNT with a single chirality”

3 35 (), (), “ Chiral control ; possible or not possible?” 8 29

1 The 8th Asian International Seminar on Atomic and Molecular Physics, 08 11 24-28 Perth, Australia , “ Spectroscopy of molecular anions in a storage ring at TMU ”

2 - () “ Laser-energizing experiments of molecular ions stored in an electrostatic ion storage ring” 12 15

- 1 1st CMD (Center for Space-Time Molecular Dynamics) International Symposium 2008.5.30-6.1
Seoul (Korea) Development of Accurate Two-Component Relativistic Methods and Calculations
of Magnetic Properties of Molecules containing Heavy-Elements
- 2 Theory and Applications of Computational Chemistry (TACC) 2008. 2008.9.22-27 Shanghai
(China) An Endeavor at Constructing an Accurate Two-Component Relativistic Method for Heavy
and Super-Heavy Elements

- 1 Gordon Research Conference on Molecular and Ionic Clusters 2008.9.7-12 Aussois (France)
Formation and reaction of a solvated electron in water clusters

- 1 International Symposium on Molecular Theory for Real Systems 2008.8.4-6 Okazaki
Theoretical Studies on Circular Dichroism of L-Alanine in Gas and Condensed Phases
- 2 The World Association of Theoretical and Computational Chemists (WATOC) 2008. 2008.9.14-19
Sydney (Australia) Theoretical Studies on Circular Dichroism Spectra of L-Alanine

<共同研究>

- 1
- 2 - K. W. Hipps

- 1 Max-Planck-Institute for Polymer Research, Mainz, Germany

- 1 Cassini

海外からの訪問者 平成20年度

Dongho Kim

Yonsei University 20

Xi Dou

Max-Planck-Institute for Polymer Research 20 8 25

Daniel Nettispach

University of Cambridge, U 20 9 16 22

Vitali Tugarinov

University of Maryland, USA 21 1 29

University of Texas Medical Branch, USA 21 1 27 29

Neil Robertson

University of Edinburgh 20 4 30

Walter Richtering

RWTH Aachen University, Germany 20 5 26 30

Reinhard Strey

University of Cologne, Germany 20 9 5

K. Hansen

Göteborg Univ. 20 10 13 25

E. Sunden

Göteborg Univ. 20 10 13 25

19 4 21 3

1

20

20

20

20

20

20

20

Journal of Sulfur Chemistry

18

20

21

JHPO

19

21

18

21

19

20

JBIC

19

22 ()

19

21

PROTEOMICS

19

20

CHROMATOGRAPHY

19

20

2008 4-2008 7

20

20

20

20

20

20

20

8 7

QDB

QLDB

他大学非常勤講師（講義・集中講義など） 平成 20 年度

I

B

20 9 10 12

II

H20 7 7

20 28 30

各賞受賞 平成 20 年度

2008

2008 9 18

H20. 11. 13

69

H20. 5. 15

88

bi - TIF

11

2

2

[2 2 2]

-

2008 9 19

2008 9 19

大学院教育改革プログラム（大学院 GP）

17 2

GP)

19

3

<報告書 1 >

19-20

<報告書 2 >

第二部

各研究分野活動状況

ESR)

I 発表論文等

01. Ken-ichi Yanashita, Kei-ichi Sato, Masaki Kawano and Makoto Fujita.
 " Photo-induced self-assembly of Pt(II)-linked rings and cages via the
 photolabilization of a Pt(II)-py bond" *New J. Chem*, 2009, **33**, 264- 270
02. " Hartree-Fock
 " **43** (11) 129-136 (2008)
03. " " , (pp. 96-112
 , 2009), II

II 学会発表、講演等

01. Ken-ichi Sugiura, Ken-ichi Yanashita, Motoko S. Asano, Masahiko Hada, Hroyuki Tanaka,
 and Tonoji Kawai (Invited)
 Synthesis and Single Molecule Characterization of Cyclic Porphyrin Oligomers:
 Triangles and Squares
 Fifth International Conference on Porphyrins and Phtalocyanines (Moscow Russia,
 July 6 - 11, 2008)
02. Ken-ichi Yanashita, Satoshi Miyashita, Motoko Asano, Masahiko Hada, and Ken-ichi
 Sugiura
 Syntheses and Axial Coordination Chemistry of Pt(IV)-Porphyrin Complexes.
 Fifth International Conference on Porphyrins and Phtalocyanines (Moscow Russia,
 July 6 - 11, 2008)
03. _____ ()
 21
 2008 8 5-7 8 6
04. _____
 P
 21
 2008 8 5-7 8 6
05. _____

15 _____
89
2009 3 27-30 3 27

16 _____
89
2009 3 27-30 3 27

17. _____
89
2009 3 27-30 3 27

18 _____
89
2009 3 27-30 3 28

19 _____
89
2009 3 27-30 3 28

20 _____
89
2009 3 27-30 3 29

宇宙化学研究室

ICP

45~46

(1)

(2) HED
HED

(3)

4

, (4)

(5) CK

ICP

ICP
ICP

)

(

JRR-3

³⁶Cl

8

10 μ m

PM₁₀

2.5 μ m

PM_{2.5}

I. 原著論文

01. Y. Karouji and M. Ebihara
“Reliability of prompt gamma-ray analysis for the determination of Na and Mg in rock samples”
Anal. Sci. **24**, 659-663 (2008).
02. N. Tanaka, Y. Oura and M. Ebihara
“Determination of iridium and gold in rock samples by using pre-concentration neutron activation analysis”
J. Radioanal. Nucl. Chem. **278**, 603-606 (2008).
03. Y. Oura, T. Otsuki, K. Hirose and M. Ebihara
“Linear electron accelerator for radiochemical studies at Tohoku University”
J. Radioanal. Nucl. Chem. **278**, 723-726 (2008).
04. S. Sekimoto, T. Kobayshi, K. Takamiya, M. Ebihara and S. Shibata
“Chemical compositions of magnetic spherules collected from deep sea sediment”
J. Radioanal. Nucl. Chem. **278**, 319-322 (2008).
05. M. Ebihara, Y. S. Chung, H. M. Dung, J. H. Moon, B.-F. Ni, T. Otsushi, Y. Oura, F. L. Santos, F. Sasajima, Sutisna, B. S. Wee, W. Wimolwattanapun, A. K. B. H. Wood
“Application of NAA to air particulate matter collected at thirteen sampling sites in eight Asian countries: A collaborative study”
J. Radioanal. Nucl. Chem. **278**, 463-467 (2008).
06. M. Oshima, Y. Toh, Y. Hatsukawa, M. Koizumi, A. Kimura, A. Haraga, M. Ebihara and K. Sushida
“Multiple gamma-ray detection method and its application to nuclear chemistry”
J. Radioanal. Nucl. Chem. **278**, 463-467 (2008).
07. Y. Ishii, A. Toyoshima, K. Tsukada, M. Asai, H. Toume, I. Nishinaka, Y. Nagame, S. Miyashita, T. Mori, H. Saganuma, H. Haba, M. Sakamaki, S. Goto, H. Kudo, K. Akiyama, Y. Oura, H. Nakahara, Y. Tashiro, A. Shinohara, M. Schädel, W. Brüchle, V. Pershina, J. V. Kratz
“Fluoride Complexation of Element 104, Rutherfordium (Rf), Investigated by Cation-exchange Chromatography”
Chemistry Letters **37**, 288-289 (2008).
08. A. Toyoshima, H. Haba, K. Tsukada, M. Asai, K. Akiyama, S. Goto, Y. Ishii, I. Nishinaka, T. K. Sato, Y. Nagame, W. Sato, Y. Tani, H. Hasegawa, K. Matsuo, D. Saika, Y. Kimoto, A. Shinohara, M. Ito, J. Saito, H. Kudo, A. Yokoyama, M. Sakama, K. Sueki, Y. Oura, H. Nakahara, M. Schädel, W. Brüchle, J. V. Kratz
“Hexafluoro Complex of Rutherfordium in Mixed HF/HNO₃ solutions”
Radiochimica Acta **96**, 125-134 (2008)

II. 著書、総説等

01.

2008 , (2008) .

02

22, 12-18, (2008)

03

22, 42-45, (2008)

III. 学会発表、講演等

01. A. Yamaguchi, H. Takeda, L.E. Nyquist, D. Bogard, Y. Karouji, M. Ebihara
“Basaltic clasts in Y-86032 feldspathic Lunar meteorite: Ancient volcanism far from the Procellarum KREEP

terrane”

39th Lunar and Planetary Science Conference (2008.3, Huston)

02. M. Kobayashi, N. Hasebe, E. Shibamura, T. Miyachi, T. Takashima, O. Okudaira, N. Yamashita, S. Kobayashi, M. Hareyama, Y. Karouji, S. Kodaira, M. Ebihara, T. Arai, T. Sugihara, H. Takeda, K. Iwabuchi, K. Hayatsu, S. Nemoto, T. Hihara, C. d’Uston, S. Maurice, O. Gasnault, B. Diez and R. C. Reedy
“Current Status of the Gamma-Ray Spectrometer on SELENE (KAGUYA)”
39th Lunar and Planetary Science Conference (2008.3, Huston)

03. N. Shirai and M. Ebihara
“Chemical characteristics of Nakhrites: Implications to the geological setting for Nakhrites”
39th Lunar and Planetary Science Conference (2008.3, Huston)

04.
AMS ^{36}Cl 2007 UTTAC
UTTAC (2008.3)

05. Y. Karouji, N. Hasebe, E. Shibamura, M.-N. Kobayashi, O. Okudaira, N. Yamashita, S. Kobayashi, M. Hareyama, T. Miyachi, S. Kodaira, S. Komatsu, K. Hayatsu, K. Iwabuchi, S. Nemoto, Y. Takeda, K. Tsukada, H. Nagaoka, M. Ebihara, T. Hihara, T. Arai, T. Sugihara, H. Takeda, C. d’Uston, O. Gasnault, B. Diez, O. Forni, S. Maurice, R.C. Reedy, and K.J. Kim
“Elemental mapping of the Moon by the SELENE GRS observation”
71st Annual Meetings of the Meteoritical Society (2008.7)

06. N. Shirai and M. Ebihara
“Constraints on the magmatism of Mars inferred from chemical compositions and radiogenic isotopic compositions of Shergottites”
71st Annual Meetings of the Meteoritical Society (2008.7)

07. M. Kimura, Y. Lin, C. Floss, A. Suzuki, T. Mikouchi and M. Ebihara.
“Fluorophlogopite in the EH chondrite Y-82189”
71st Annual Meetings of the Meteoritical Society (2008.7)

08. J. Isa, K. Shinotsuka, A. Yamaguchi and M. Ebihara
“Chemical characteristics of Northwest Africa 011 and Northwest Africa 2976”
71st Annual Meetings of the Meteoritical Society (2008.7)

09. H. Nagaoka, Y. Karouji, T. Arai, K. Shinotsuka, M. Ebihara, N. Hasebe
“Most ferroan feldspathic lunar meteorite NWA 2200”
71st Annual Meetings of the Meteoritical Society (2008.7)

10. M. Honda, K. Nagao, K. Bajo, H. Nagai, Y. Oura, K. Nishiizumi
“Cosmogenic Histries In Gibeon and Campo Del Cielo Iron Meteorites”
71st Annual Meetings of the Meteoritical Society (2008.7)

11. Y. Ishii, A. Toyoshima, K. Tsukada, M. Asai, H. Toume, I. Nishinaka, Y. Nagame, S. Miyashita, T. Mori, H. Sukanuma, H. Haba, S. Goto, H. Kudo, K. Akiyama, Y. Oura, A. Shinohara, M. Schädel, W. Brüchle, V. Pershina, J. V. Kratz
“Cation-Exchange Behavior of Rf in HNO_3/HF Mixed Solution”
17th International Conference on Nuclear and Radiochemistry (2008.8 Hungary)

12.
(MPGA)
52 (2008.9)

13.

55 (2008.9)

14.

Tafassasset

55 (2008.9)

15. J.A. Barrat

55 (2008.9)

16.

Dhofar 1428

55 (2008.9)

17.

MPGA-

55 (2008.9)

10¹²

10¹⁵

2008 6 1

2009 4

I. 原著論文

01. Jun-ya Hoshi, Saeko Amano, Yuko Sasaki, Takashi Korenaga
“Investigation and estimation of emission sources of 54 volatile organic compounds in ambient air in Tokyo”
Atmospheric Environment, **42**, 2383-2393 (2008).
02. Yaeko Suzuki, Yoshito Chikaraishi, Nanako O. Ogawa, Naohiko Ohkouchi, Takashi Korenaga
“Geographical origin of polished rice based on multiple element and stable isotope analyses”
Food Chemistry, **109**, 470-475 (2008).
03. “ ”
, **55**, 191-193 (2008).
04. Rumiko Nakashita, Yaeko Suzuki, Fumikazu Akamatsu, Yoshiko Iizumi, Takashi Korenaga, Yoshito Chikaraishi
“Stable carbon, nitrogen, and oxygen isotope analysis as a potential tool for verifying geographical origin of beef”

Analytica Chimica Acta, **617**, 148-152 (2008).

05.

“ ”

, **55**, 250-252 (2008).

06. Yoshimasa Takabayashi, Tatsuya Fujino, Takashi Korenaga
“Direct Observation of Dispersion and Mixing Processes in Microfluidic Systems”
Analytical Sciences, **24**, 1481-1485 (2008).
07. M. Yamamoto, Y. Suzuki, R. Nakasita, T. Ichimiya, F. Akamatsu, T. Korenaga
“High sensitive detection of ¹⁵N-labeled amino acids in crops by GC/IRMS”
Proceedings of the 4th International Symposium on Isotopomers, **4**, 274-278 (2008).
08. T. Ichimiya, R. Nakashita, Y. Suzuki, F. Akamatsu, T. Korenaga
“Application of stable isotope analysis to verify the authenticity of beef”
Proceedings of the 4th International Symposium on Isotopomers, **4**, 279-284 (2008).
09. T. Fujino, K. Hirota, K. Ohta, T. Tahara
“In cell viscosity measurement using a fluorescence up-conversion microscope”,
Chem. Lett., **37**, 1240 (2008).
10. S. Yamaguchi, T. Fujita, T. Fujino, T. Korenaga
“Suppression of matrix-related ions using cyclodextrin in MALDI mass spectrometry”
Anal. Sci., **24**, 1497 (2008).
11. T. Sakamaki, T. Fujino, H. Hosoi, T. Tahara, T. Korenaga
“Solvation Structure of Polyacrylamide Fine Particle Surfaces Studied by Picosecond Time-resolved Fluorescence Spectroscopy”
Chem. Lett., **37**, 980 (2008).
12. Daisuke Nanjo, Nobuyuki Shimizu, Kohei Shibamoto, Takashi Korenaga
“Laser Desorption/Ionization by using Surface of dispersed Single Wall Carbon Nanotubes”
e-J. Sur. Sci. Nanotech, **in press** (2008).
13. Koji Miyazaki, Jun Matsumoto, Shungo Kato, and Yoshizumi Kajii,
“Development of Atmospheric NO Analyzer by Using a Laser-induced Fluorescence NO₂ Detector”,
Atmospheric Environment, **42**, 7812-7820 (2008).
14. Kentaro Misawa, Jun Matsumoto, Norihiro Tsuji, Yoichi Matsuzaki,
Shun-ichi Hayashi, and Masaaki Fujii,
“Resonance-enhanced Multiphoton Ionization Spectroscopy of the S₁-S₀ Transition of Benzo[e]pyrene for Real-time Analysis”,
Chemistry Letters, **37**, 1280-1281 (2008).
15. Kentaro Misawa, Jun Matsumoto, Yohei Yamato, Saori Mae, Shun-ichi Ishiuchi,
and Masaaki Fujii,
“Real-Time and Direct Measurement of Pollutants in Exhaust Gas Utilizing Supersonic Jet / Resonance Enhanced Multi-Photon Ionization”,
SAE Technical Paper Series, **SP-2150**, 2008-01-0761(2008).
16. Daisuke Nanjo, Kohei Shibamoto, Takashi Korenaga
“Visible and Near-infrared Laser Desorption ionization Mass Spectrometry Using Single Wall Carbon Nanotubes”
Chemistry Letters, **38**, 142-143 (2009).
17. T. Sakamaki, T. Fujino, H. Hosoi, T. Tahara, T. Korenaga
“Picosecond Time-resolved Fluorescence Study of Poly Vinyl Methyl Ether Aqueous Solution”

Chem. Phys. Lett., **468**, 171 (2009).

18. Keishiro Nagoshi, Kazuhiro Sakata, Kohei Shibamoto and Takashi Korenaga
“Ionization Mechanism in Surface Plasmon Enhanced Laser Desorption/Ionization”
e-J. Surf. Sci. Nanotech. **7**, 93 (2009).
19. Jun. Matsumoto, Kentaro Misawa, Shun-ichi Ishiuchi, and Masaaki Fujii,
“In Situ, Fast Response, Molecular-selective Methods for Measuring Emission
Factors of Volatile Organic Compounds (VOCs) into the Atmosphere”,
Chemistry Letters, **38**, 74-75 (2009).

II. 著書、総説等

01. —
—, 63, 12-16 (2008)
02. T. Fujino, T. Tahara
”Ultrafast Fluorescence Microscope”
Chapter 3 in “*Biochemical applications of nonlinear optical spectroscopy*”
ed. Vladislav Yakovlev, pp. 53-72 CRC Press (2008).
03. — —
22 —
2009

III. 学会発表、講演等

01. In-cell Viscosity Measurements by Femtosecond Fluorescence
Up-conversion Microscopy
Focus On Microscopy 2008.4
02. 69 2008.5
03. 69 2008.5
04. 69 2008.5
05. 56 2008.5
06. Sub- μm Si
56 2008.5
- 07.

56 2008.5

08. LDI

56 2008.5

09. 2 LDI

56 2008.5

10.

56 2008.5

11.

56 π 2008.5

12.

56 2008.5

13.

56 2008.5

14.

56 2008.5

15.

2008 2008.5

16.

2008 2008.5

17.

in 2008 2008.7

18.

1 2008.7

19.

20. R. Nakashita, Y. Suzuki, F. Akamatsu, and T. Korenaga
Carbon, nitrogen, oxygen, and fatty acid hydrogen isotope analyses of polished rice
for verifying its geographical origin
The 6th International Conference on Applications of Stable Isotope Techniques to
Ecological Studies 2008.8
21. Y. Suzuki, R. Nakashita, F. Akamatsu, and T. Korenaga
Geographical origin of beef based on bulk carbon, nitrogen, oxygen and fatty acid hydrogen isotope analyses
The 6th International Conference on Applications of Stable Isotope Techniques to
Ecological Studies 2008.8
22. F. Akamatsu, Y. Suzuki, R. Nakashita, T. Korenaga
Carbon and oxygen stable isotopes of rice as proxy parameters for changes in rice production with climate
warming
The 6th International Conference on Applications of Stable Isotope Techniques to
Ecological Studies 2008.8
23.
55 2008.9
24.
2 MALDI
2008.9
25.
2 LDI-MS
61 2008.9
26.
LDI-MS
57 2008.9
27.
LDI-MS
57 2008.9
28.
57 2008.9
29.
MALDI
57 2008.9
30.
MALDI
57 2008.9

31. 57 2008.9
32. 15N / (GC/IRMS)
57 2008.9
33. 49 (2008.9)
34. 49 (2008.9)
35. Takashi Korenaga
Characterization of Diffusion and Mixing Phenomena in Microfluidic FIA System
The 15th International Conference on Flow Injection Analysis including related techniques 2008.9
36. M. Yamamoto, Y. Suzuki, R. Nakasita, T. Ichimiya, F. Akamatsu, and
T. Korenaga
High sensitive detection of 15N-labeled amino acids in crops by GC/IRMS
The 4th International Symposium on Isotopomers 2008.10
37. R. Nakashita, Y. Suzuki, T. Korenaga, T. Okano, T. Komatsu, H. Hayashi,
M. Yoh, and T. Tsubota
A study by carbon and nitrogen stable isotopes on the turn over time of hair and serum in Asiatic black bear
The 4th International Symposium on Isotopomers 2008.10
38. T. Ichimiya, R. Nakashita, Y. Suzuki, F. Akamatsu, and T. Korenaga
Application of stable isotope analysis to verify the authenticity of beef
The 4th International Symposium on Isotopomers 2008.10
39. Keishiro Nagoshi, Kohei Shibamoto, Takashi Korenaga
Ionization Mechanism in Surface Plasmon Enhanced Laser Desorption/Ionization
The 5th International Symposium on Surface Science and Nanotechnology
(2008.11 Tokyo)
40. Daisuke Nanjo, Nobuyuki Shimizu, Kohei Shibamoto, Takashi Korenaga
Laser Desorption/Ionization by using Surface of dispersed Carbon Nanotubes
The 5th International Symposium on Surface Science and Nanotechnology
(2008.11 Tokyo)
41. 2 2008.11
42. MALDI
2 2008.11
- 43.

3 2008.12

44.

π

3 2008.12

45.

(SP)

(SP-LDI)

3 2008.12

46.

2009.3

47.

15N

56 2009.3

48.

56 2009.3

同位体化学研究室

^{57}Fe

-

10 18

1 n 10 5.0 ms^{-1} n 18 Fe-Fe

3.09 ms^{-1} Fe-Fe

2 Fe-Fe

Ph_4As^+ Ph_4P^+

 2 $[\text{Fe}_2(\text{C}_2\text{O})_5]^{4-}$

 2

$[\text{Fe}_2(\text{C}_2\text{O})_5]^{4-}$

Fe Fe

$(\text{Et}_4\text{N})_4[\text{Fe}_2(\text{ox})(\text{NCS})_8]$ $\text{Fe}_2(\text{ox})(\text{acac})_4$

$[\text{Fe}_2(\text{C}_2\text{O})_5]^{4-}$

 M= $\pm 1/2$ M= $\pm 3/2$

 M= $\pm 3/2$

$\text{FeCl}_3 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$

$[\text{Fe}(\text{CN})_6]^{3-}$

 crown-6 Ln DMF 18 -6 18

 Ln-crown Gd Tb Ln-DMF

 Ce Pr Nd Sm La Sm Ln 1 La

 N Ln-DMF XRD CN

 Ln-crown d_{xz} d_{yz} d_{xy}

Mg 1-3

I. 原著論文

01. Ya-Feng Huang, Ho-Hsiang Wei, and Motomi Katada
"A cyano-bridged hetero-tetranuclear $[\text{Sm}_2(\text{o-phen})_2(\text{DMF})_6(\text{H}_2\text{O})_2(\square\text{-CN})_4\text{Fe}_2(\text{CN})_8]\cdot 5\text{H}_2\text{O}\cdot\text{CH}_3\text{OH}$: synthesis, structure. Mössbauer spectrum, and magnetism"
J. Coord. Chem., **61**, 2683 (2008).
02. A. Toyoshima, H. Haba, K. Tsukada, M. Asai, K. Akiyama, S. Goto, Y. Ishii, I. Nishinaka, T. K. Sato, Y. Nagame, W. Sato, Y. Tani, H. Hasegawa, K. Matsuo, D. Saika, Y. Kitamoto, A. Shinohara, M. Ito, J. Saito, H. Kudo, A. Yokoyama, M. Sakama, K. Sueki, Y. Oura, H. Nakahara, M. Schaedel, W. Bruechle, and J. V. Kratz
"Hexafluoro complex of rutherfordium in mixed HF/HNO₃ solutions"
Radiochim. Acta, **96**, 125 (2008).
03. Y. Ishii, A. Toyoshima, K. Tsukada, M. Asai, H. Toume, I. Nishinaka, Y. Nagame, S. Miyashita, T. Mori, H. Suganuma, H. Haba, M. Sakamaki, S. Goto, H. Kudo, K. Akiyama, Y. Oura, H. Nakahara, Y. Tashiro, A. Shinohara, M. Schädel, W. Brüchle, V. Pershina, and J. V. Kratz, "Fluoride Complexation of Element 104, Rutherfordium (Rf), Investigated by Cation- exchange Chromatography"
Chem. Lett. **37**, 288 (2008).

II. 著書・総説等

- 01
20 1
eye 8 68 (2008).
02.
19
17 46 (2008).
- 03
Isotope News **654 (10)**, 30 (2008).

III. 学会発表、講演等

01.
9 2008.3
02. Kazuhiko AKIYAMA, Hiromitsu HABA, Keisuke SUEKI, Kazuaki TSUKADA, Masato ASAI, Atsushi TOYOSHIMA, Yuichirou NAGAME, and Motomi KATAD
"Metallofullerene Encapsulating ²²⁵Ac"
The Second Internacional Nuclear Chemistry Congress (2008, 4, Mexico)
03.
45 2008.7
04.
2008 52 2008.9
- 05.

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)

I . 原著論文

01. M. Williams-Harry, A. Bhaskar, G. Ramakrishna, T. Goodson, III, M. Imamura, A. Mawatari, K. Nakao, H. Enozawa, T. Nishinaga, M. Iyoda
“Giant Thienylene-Acetylene-Ethylene Macrocycles with Large Two-Photon Absorption Cross Section and Semishape-Persistence”
J. Am. Chem. Soc., **130**, 3252-3253 (2008).
02. J. Yamakawa, M. Ohkoshi, F. Takahashi, T. Nishiuchi, Y. Kuwatani, T. Nishinaga, M. Yoshida, M. Iyoda
“Synthesis and Properties of Cyclic [5]meta-Phenyleneacetylene and Its Corresponding Cyclophane Polyone, [25](1,3)Cyclophanedecaone”
Chem. Lett., **37**, 784-785 (2008).
03. M. J. Rahman, J. Yamakawa, A. Matsumoto, H. Enozawa, T. Nishinaga, K. Kamada, M. Iyoda
“Synthesis of Nonaphenylenes and Dodecaphenylenes Using Electron-Transfer Oxidation of Lipshutz Cuprates and Formation of Nanostructural Materials from Hexadodecyloxynonaphenylene”
J. Org. Chem., **73**, 5542-5548(2008).
04. M. Hirama, Y. Kato, C. Seki, H. Matsuyama, N. Oshikiri, M. Iyoda
“Asymmetric cycloaddition of 1,2-dihydropyridine derivatives in the presence of Lewis acids”
Chem. Lett., **37**, 924-925 (2008).
05. K. Nakao, T. Nishiuchi, and M. Iyoda,
“Syntheses, Structures, and Properties of Bithiophenophanes Bridged at 1,8-Positions of Naphthalenes”
Heterocycles, **76**, 727-745 (2008).
06. Y. Miyake, S. Watanabe, S. Aono, T. Nishinaga, A. Miyazaki, T. Enoki, H. Miyasaka, H. Otani, M. Iyoda
“Long-distance ferromagnetic coupling through spin polarization in a linear heterotrinary iron(III)-copper(II)-iron(III) complex derived from 5-ferrocenyl-2-aminotropone”
Chem. Commun., 6167-6169(2008).
07. T. Nishinaga, T. Uto, R. Inoue, A. Matsuura, N. Treitel, M. Rabinovitz, K. Komatsu

“Antiaromaticity and Reactivity of the Planar Cyclooctatetraene Fully Annulated with Bicyclo[2.1.1]hexane Units”

Chem. Eur. J., **14**, 2067-2074 (2008).

08. D. Wu, X. Feng, M. Takase, M. C. Haberecht, K. Müllen

“Synthesis and Self-assembly of Dibenzo[*jk,mn*]naphtho[2,1,8-*fgh*]thebenidinium Derivates”

Tetrahedron **64**, 11379-11386 (2008).

09. X. Feng, M. Liu, W. Pisula, M. Takase, J. Li, K. Müllen

“Supramolecular Organization and Photovoltaics of Triangle-shaped Discotic Graphenes with Swallow-tailed Alkyl Substituents”

Adv. Mater. **20**, 2684-2689 (2008).

10. X. Feng, W. Pisula, L. Zhi, M. Takase, K. Müllen

“Controlling Columnar Orientation of C_3 -symmetric “Superbenzenes” by Alternating Polar/Apolar Substitutions”

Angew. Chem. Int. Ed. **43**, 1703-1706 (2008).

11. X. Feng, W. Pisula, M. Takase, V. Enkelmann, M. Wagner, N. Ding, K. Müllen

“Synthesis, Helical Organization, and Fibrous Formation of C_3 Symmetric Methoxy Substituted Discotic Hexa-*peri*-hexabenzocoronene”

Chem. Mater. **20**, 2872-2874 (2008).

II. 著書、総説

01.

(2008).

02.

(2008).

03.

447, 26-31 (2008).

04.

” **66**, 1211-1222 (2008).

05. M. Iyoda

“Radialenes” In *Compounds with All-Carbon Functions: Arenes, Annulenes and Conjugated Polyenes, Volume 45A, Science of Synthesis*, Georg Thieme Verlag KG, pp 507-541, (2008).

06. T. Nishinaga

“8-Membered Rings, Cyclooctatetraenes” In *Compounds with All-Carbon Functions: Arenes, Annulenes and Conjugated Polyenes, Volume 45A, Science of Synthesis*, Georg Thieme Verlag KG, (2008).

07. T. Nishinaga

“9-Membered Rings and Higher” In *Compounds with All-Carbon Functions: Arenes, Annulenes and Conjugated Polyenes, Volume 45A, Science of Synthesis*, Georg Thieme Verlag KG, (2008).

III. 学会発表

01.

(2008. 1,)

02. Eigo Isomura, Hideo Enozawa, Tohru Nishinaga, Masahiko Iyoda

“Synthesis and Properties of 4,5-Bis(2-pyridylethynyl)tetrathiafulvalene and its Copper Complexes”
TMU/SNU Joint Seminar on Nano-Science and Related Topics (2008. 2, Hachioji)

03. Tomohiko Nishiuchi, Yoshiyuki Kuwatani, Tohru Nishinaga, Masahiko Iyoda
 “Molecular Tweezers Composed of Dibenzocyclooctatetraene Units; Synthesis, Properties, and Substituent Effects of Binding Abilities”
 TMU/SNU Joint Seminar on Nano-Science and Related Topics (2008. 2, Hachioji)
04. Mika Imamura, Akane Mawatari, Kazumi Nakao, Tohru Nishinaga, Masahiko Iyoda
 “Synthesis and Properties of Giant Cyclic Oligothiophenes Composed of Thiophenes, Acethylenes, and Ethylenes”
 TMU/SNU Joint Seminar on Nano-Science and Related Topics (2008. 2, Hachioji)
05. TTF-4,5-
 2008. 3,
06. 4,5- (2-)TTF
 2008. 3,
07. 2008. 3,
08. 2008. 3,
09. 2008. 3,
10. 3,4-
 2008. 3,
11. [12](3,4- -2,5- -)
 2008. 3,
12. FET
 2008. 3,
13. bi-TTF
 2008. 3,
14. 2008. 3,
15. 2008. 3,

16. [2.2.2] 2008. 3,
17. 4,5- -4'- 2008. 3,
18. 4 2008. 3,
19. Klaus Müllen 2008. 3,
20. (2008. 6,)
21. π (2008. 6,)
22. Masahiko Iyoda
 “Electroactive Supramolecular Architectures Based on TTF Oligomers”
 23rd International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur 2008. 6 Moscow
23. Eigo Isomura, Hideo Enozawa, Tohru Nishinaga, Masahiko Iyoda
 “Synthesis, Nanostructures and Electronic Properties of 4,5-Bis(2-pyridyl-ethynyl)TTF and its Metal
 Complexes Bearing Long Alkylthio Groups”
 23rd International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur 2008. 6 Moscow
24. Takeshi Ohmae, Tohru Nishinaga, Masahiko Iyoda
 “A Planar Sulfur-Bridged Cyclic Tetrathiophene Bearing an Antiaromatic Cyclooctatetraene Ring”
 23rd International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur 2008. 6 Moscow
25. Masahiko Iyoda
 “Multi-Functional π -Conjugated Giant Thienylene-Acetylene-Ethylene Macrocycles”
 The 8th International Symposium on Functional π -Electron Systems (F π 8) 2008. 7 Graz
26. Tomohiko Nishiuchi, Yoshiyuki Kuwatani, Tohru Nishinaga, Masahiko Iyoda
 “Enhanced Thermochromism in Host-Guest Complexes of Dynamic Molecular Tweezers”
 The 8th International Symposium on Functional π -Electron Systems (F π 8) 2008. 7 Graz
27. Jun Yamakawa, Tohru Nishinaga, Kenji Kamata, Masahiko Iyoda
 “Nanostructural Materials Based on Hexadecyloxynonaphenylene”
 The 8th International Symposium on Functional π -Electron Systems (F π 8) 2008. 7 Graz
28. Masayoshi Takase, Klaus Müllen
 “Synthesis and Characterization of Nitrogen-containing Polycyclic Heterocycles”
 The 8th International Symposium on Functional π -Electron Systems (F π 8) 2008. 7 Graz
- 29.

- (2008. 9.)
- 30.
- (2008. 9.)
31. FET
- (2008. 9.)
32. bi-TTF
- (2008. 9.)
33. 4,5- (2-)TTF
- (2008. 10.)
- 34.
- (2008. 10.)
35. [2.2.2]
- (2008. 10.)
36. TTF-4,5-
- (2008. 10.)
- 37.
- (2008. 10.)
38. π
- (2008. 10.)
39. Masahiko Iyoda
 “Functional Nanoscopic and Mesoscopic Architectures of Self-Assembled Organic π -Donors”
 The 7th Korean Conference on Innovative Science and Technology 2008. 10, Seoul
- 40.
- 11 (2008. 11.)
41. Masahiko Iyoda
 “Supramolecular Structures and Unique Properties of Organic π -Donors”
 Workshop on Information, Nano and Photonics Technology 2008 (2008. 11.)
42. π
- π (2008. 12.)
- 43.

44. π π (2008. 12)
45. π π (2008. 12)
46. 35 (2008. 12)⁴
47. 4,5- (2-)TTF
35 (2008. 12)
48. 35 π
(2008. 12)
49. 35 bi-TTF
(2008. 12)
50. [2.2.2]
35 (2008. 12)
51. 35 TTF-4,5-
(2008. 12)
52. 35 (2008. 12)
53. 35 π
(2008. 12)
54. π (2008. 12)
55. π (2008. 12)

(1)

CV

X

(2)

(3)

2, 2 -

CD

NMR

(4)

NMR

[3+2]

[3+2]

2, 5-

[3+2]

1 2

I. 原著論文

01. T. Tsuchiya, Y. Okada, T. Shimizu, K. Hirabayashi, N. Kamigata
 "Molecular Transformations of Unsaturated Thiacycrown Ethers"
J. Org. Chem. **2008**, *73*, 76-80.

II. 著書、総説等

01. T. Shimizu
 "2.19 Four-membered Rings with Two or More Heteroatoms including Selenium or Tellurium"
Comprehensive Heterocyclic Chemistry III Katritzky, A. R.; Ramsden, C. A.; Scriven, E. F. V.; Taylor, R. J. K., Eds., Elsevier, Oxford, **2008**, Vol.2, 853-874.

III. 学会発表、講演等

01. 8 1
 88 2008 3

02. [3+2]
 88 2008 3

03. 88 2008 3

04.

88 2008, 3,

05.

88 2008, 3,

06.

2008, 5,

07. Toshi o Shi mizu (Plenary Lecture)

Synthesis, Structure, and Complexation Behavior of Unsaturated Chalcogenacrown
Ethers

23rd International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur (ISOCS-23) (2008, 7,
Moscow Russia)

08.

33 2008, 8,

09.

Lewis

2008, 9,

10.

2008, 9,

11.

2008, 9,

12.

Cycloaddition Reaction of Allyl Chalcogenides with Imines

55 2008, 9,

13.

2008 2008, 9,

14.

35 2008, 12,

15.

35 2008, 12,

16.

(III)

35

2008, 12,

17.

35

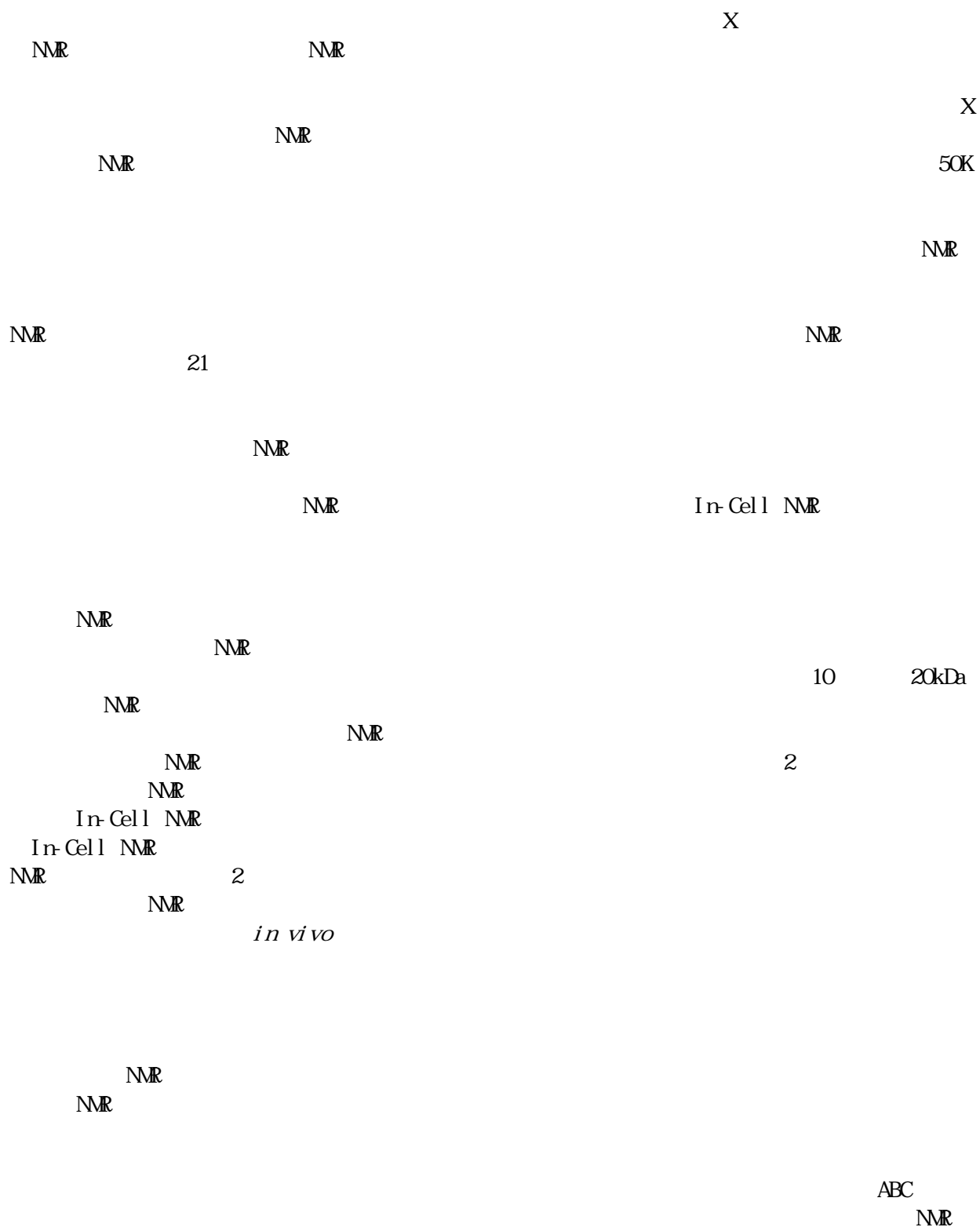
2008, 12,

18

16

35

2008, 12,



1. 原著論文

01. T. Terada, D. Satoh, T. Mikawa, Y. Ito & K. Shimizu
“Understanding the roles of amino acid residues in tertiary structure formation of chignolin by using

molecular dynamics simulation.”

Proteins **73**, 621-631 (2008)

02. D. Sakakibara, A. Sasaki, T. Ikeya, J. Hamatsu, T. Hanashima, M. Mishima, M. Yoshimasu, N. Hayashi, T. Mikawa, M. Wälchli, B. O. Smith, M. Shirakawa, P. Güntert & Y. Ito
“Protein structure determination in living cells by in-cell NMR spectroscopy”
Nature **458**, 102-105 (2009)
03. K. Inomata, A. Ohno, H. Tochio, S. Isogai, T. Tenno, I. Nakase, T. Takeuchi, S. Futaki, Y. Ito, H. Hiroaki & Masahiro Shirakawa
“High-resolution multi-dimensional NMR spectroscopy of proteins in human cells”
Nature **458**, 106-109 (2009)

II. 著書、総説等

01.

2008 2

III. 学会発表、講演等

01.

2008 5 13 20 27 6 3

02.

8 MBF1 2008 6 10~12

03.

Jee JunGoo OSBP 2008 6 10~12

04.

8 HPF 2008 6 10~12

05.

Brian Smith Peter Güntert Markus Wälchli
Investigating protein three-dimensional structures inside living cells by in-cell NMR spectroscopy
XXIIIth ICMRBS (2008 8 24~29 San Diego USA)

06.

Daniel Nietlispach Markus Wälchli
Applications of nonlinear sampling scheme to four dimensional tripleresonance NMR spectroscopy
XXIIIth ICMRBS (2008 8 24~29 San Diego USA)

07.

Heteronuclear multi-dimensional NMR of proteins overexpressed in cells
XXIIIth ICMRBS (2008 8 24~29 San Diego USA)

08.

Daniel Nietlispach Markus Wälchli
4 NMR
47 NMR 2008 11 12~14

09. NMR
47 NMR 2008 11 12~14
10. Markus Wälchli
Brian Smith Peter Güntert
In-cell NMR
47 NMR 2008 11 12~14
11. HPF
47 NMR 2008 11 12~14
12. MBF1
47 NMR 2008 11 12~14
13. NMR RecO
47 NMR 2008 11 12~14
14. EB1
46 2008 12 3-5
15. Jee Jun Goo
pHtrII
46 2008 12 3-5
16. Daniel Nietlispach Markus Wälchli
4 NMR
46 2008 12 3-5
17. Markus Wälchli Brian O.
Smith Peter Güntert
In-Cell NMR
46 2008 12 3-5
18. RecO
2008 12 9~12
19. Markus Wälchli
Brian O. Smith Peter Güntert
Investigating protein three-dimensional structures inside living cells by in-cell NMR spectroscopy
2008 12 9~12
20. NMR

- 2008 12 9~12
21. Jee JunGoo
OSBP
- 2008 12 9~12
22. MBF1
- 2008 12 9~12
23. HPF
- 2008 12 9~12
24. NMR
NMR
- 2009 3 5~6
25. Tame Jeremy R.H.
Tar NMR
- 2009
2009 3 27~29

20

21

RNA

RNA

10^{15}

RNA

ES

ES

RNA

1. 原著論文

01. Matsunaga K, Saitoh T, Tabata K, Omori H, Satoh T, Maejima I, Shirahama-Noda K, Ichimura T, Isobe T, Akira S, Noda T, Yoshimori T.

“Two Beclin 1-binding proteins, Atg14L and Rubicon, reciprocally regulate autophagy at different stages.”
Nat Cell Biol. in press

02. Nakayama H, Akiyama M, Taoka M, Yamauchi Y, Nobe Y, Ishikawa H, Takahashi N, Isobe T.

“Ariadne: a database search engine for identification and chemical analysis of RNA using tandem mass spectrometry data.”

Nucleic Acids Res. in press

03. Izumikawa K, Yanagida M, Hayano T, Tachikawa H, Komatsu W, Shimamoto A, Futami K, Furuichi Y, Shinkawa T, Yamauchi Y, Isobe T, Takahashi N.
 “Association of human DNA helicase RecQ5beta with RNA polymerase II and its possible role in transcription.”
Biochem J., **413**, 505-516 (2008)
04. Ito T, Watanabe H, Yamamichi N, Kondo S, Tando T, Haraguchi T, Mizutani T, Sakurai K, Fujita S, Izumi T, Isobe T, Iba H.
 “Brm transactivates the telomerase reverse transcriptase (TERT) gene and modulates the splicing patterns of its transcripts in concert with p54(nrb).”
Biochem J., **411**, 201-209 (2008)
05. Hayano T, Yamauchi Y, Asano K, Tsujimura T, Hashimoto S, Isobe T, Takahashi N.
 ”Automated SPR-LC-MS/MS system for protein interaction analysis.”
J. Proteome Res., **7**, 4183-4190 (2008).

II. 著書、総説等

01. Nagano K, Yoshida Y, Isobe T.
 “Cell surface Biomarkers of Embryonic Stem Cells.”
Proteomics, **8**, 4025-4035 (2008).
02. Kaji H, Isobe T.
 “Liquid Chromatography/Mass Spectrometry (LC/MS)-based Glycoproteomics Technologies for Cancer Biomarker Discovery.”
Clinical Proteomics DOI 10.1007/s12014-008-9004-1 (2008).

III. 学会発表、講演等

01.
 8 RNA
 2008.6
02.
 8 RNA
 2008.6
03.
 8 ES
 2008.6
04. Yoshikawa H, Kawasaki M, Komatsu W, Yanagida M, Hayano T, Izumikawa K, Ishikawa H, Shinkawa T, Yamauchi Y, Isobe T, Takahashi N.
 “Proteomic analysis of proteins associated with splicing factor-2 associated protein p32 revealed its possible involvement in human ribosome biogenesis.”
 2nd Pacific Rim International Conference on Protein Science (PRICPS) and 5th Asian Oceania Human Proteome Organization (AOHUPO) (2008.6, Cairns, Australia)
05.
 2008.7
06.
 2008.7
07. Nakayama H, Taoka M, Yamauchi Y, Akiyama M, Ishikawa H, Takahashi N, Isobe T.
 “A computational tool for RNA identification using tandem mass spectrometry data.”

Thirteenth Annual Meeting of the RNA Society (2008.8, Berlin, Germany)

08. Isobe T.

“Development of RNA Mass Spectrometry for Ribonucleoproteomic Analysis.”

MPSA 2008 (17th International Meeting of Methods in Protein Structure) Preconference Symposium (2008.8 Sapporo, Japan)

09.

40S

BMB 2008, 31

81

2008.12

DMET

TTF

BDA-TTP DODHI

S...S

S...N

C₆₀

Chi ral
Chi ral

chi ral

Chi ral

Chi ral

1. 原著論文

01. H. Ito, T. Ishihara, H. Tanaka, S. Kuroda, T. Suzuki, S. Onari, Y. Tanaka, J. Yamada, K. Kikuchi
“Roles of spin fluctuation and frustration in the superconductivity of β -(BDA-TTP)₂X (X=SbF₆, AsF₆) under uniaxial compression,”
Phys. Rev. **B78**, 172506/4 (2008).
02. W. Fujita, K. Kikuchi, K. Awaga
“Structural Study on a Dimerization Process in an Organic Magnet, BBDTA•InBr₄.”
Angew. Chem. Int. Ed. **47**, 9480-9483 (2008).
03. M. Mito, M. Fujino, Y. Komorida, H. Deguchi, S. Takagi, W. Fujita, K. Awaga

“Pressure-induced ferromagnetic to nonmagnetic transition of the thiazyl-based organic ferromagnet \square -BBDTA \cdot GaCl $_4$.”

J. Phys. Soc. Jpn. **77**, 124713/1-6 (2008).

04. K. Iketaki, K. Kanai, W. Fujita, K. Awaga, J. Tsutsumi, H. Yoshida, N. Sato, M. Knupfer, Y. Ouchi, K. Seki
“Electronic structure of 1,3,5-trithia-2,4,6-triazapentalenyl on gold”
Chem. Phys. Lett. **451**, 58-62 (2008).
05. Yuji Nakayama, Shinichiro Fujiki, Yasuharu Hirado, Hidetsugu Shiozawa, Hiroyoshi Ishii, Tsuneaki Miyahara, Yutaka Maniwa, Takeshi Kodama, Yoji Achiba, Hiromichi Kataura, Yoshihiro Kubozono, Masashi Nakatake, Tomohiko
“Photoemission study of electronic structures of fullerene and metallofullerene peapods”
Physica Status Solidi (b), **245**, 2025-2028(2008).

II. 著書、総説等

III. 学会発表、講演等

01. Wataru Fujita
Chemical Bonds Formed in Organic Radical Crystals
TMU/SNU Joint Seminar on Nano-Science and Related Topics 2008.02
02.
3 2008.03
03.
Pr $_2$ @C $_{80}$ LaPr@C $_{80}$ 13 C NMR
34 2008.3
04.
88 2008.03 [NT] $_3$ [GaCl $_4$] $_{1-x}$ [FeCl $_4$] $_x$ EPR
05.
88 2008.03 1,10-
06. Wataru Fujita, Koichi Kikuchi
A Structural Study on the Spin-Gap Formation Processes in Organic Radical Crystals
IUCr2008 Satellite Meeting ‘Molecular Crystals Exhibiting Exotic Functions’ 2008.08
07. Yoshiaki Shuku, Wataru Fujita, Kunio Awaga, Osamu Sato
Synthesis, structure and property of first-row transition metal complexes of [1,2,5]thiadiazolo[3,4-f][1,10]phenanthroline ligand
The 11th International Conference on Molecule-based Magnets (ICMM2008), 2008.08, Florence, Italy
08.
35 2008.8
09. ,
-
2008.09
- 10.

2008.09

11.

β -(BDA-TTP)₂X(X=I₃, IBr₂)
2 2008.9

12.

2 2008.9

13.

2 2008.9

14.

2 2008.9

15. Yoshiaki Shuku, Wataru Fujita, Kunio Awaga, Osamu Sato

Synthesis, structure and property of transition metal complexes of [1,2,5]thiadiazolo[3,4-f][1,10]phenanthroline ligand

IRTG(MS-NG) The 6th joint seminar University of Muenster - Nagoya University, 2008.09

16.

2008.12

(1)

/ Rheo-SAXS / (SAXS) Rheo-SALS (SANS)

(2)

I. 原著論文

01. S. Bulut, J. Hamit, U. Olsson, and T. Kato
“On the Concentration-Induced Growth of Nonionic Wormlike Micelles”
Eur. Phys. J. E, **27**, 261-273 (2008).
02. Y. Hirose, S. Komura, and T. Kato
“Adsorption Dynamics in Pickering Emulsions”
Prog. Theor. Phys. **175**, 81-92 (2008).
03. Y. Suganuma, N. Urakami, R. Mawatari, S. Komura, K. Nakaya-Yaegashi,
and M. Imai
“Lamellar to Micelle Transition of Nonionic Surfactant Assemblies
Induced by Addition of Colloidal Particles”
J. Chem. Phys. **129**, 134903 (10pp), (2008).
04. S. C. Sharma, K. Tsuchiya, K. Sakai, H. Sakai, M. Abe, S. Komura, K.
Sakamoto, and R. Miyahara
“Formation and Characterization of Microemulsions Containing
Polymeric Silicone”
Langmuir **24**, 7658-7662 (2008).
05. N. Shimokawa, S. Komura, and D. Andelman
“The Phase Behavior of Mixed Lipid Membranes in Presence of the Rippled Phase”
Eur. Phys. J. E **26**, 197-204 (2008).
06. Y. Sakuma, M. Imai, M. Yanagisawa, and S. Komura
“Adhesion of Binary Giant Vesicles Containing Negative Spontaneous
Curvature Lipids Induced by Phase Separation”

Eur. Phys. J. E **25**, 403-413 (2008).

07. S. Komura and N. Shimokawa,
“Dynamical Brazovskii Effect”
Soft Materilas **6**, 85-95 (2008).

08. K. Yamada and S. Komura,
“Dynamics of Order-Order Phase Separation”
J. Phys.: Condens. Matter **20**, 155107 (10pp) (2008).

09. C.-Y. D. Lu, P. Chen, Y. Ishii, S. Komura, and T. Kato,
“Non-linear Rheology of Lamellar Liquid Crystals”,
Eur. Phys. J. E **25**, 91-101 (2008).

10. Y. Nonomura and S. Komura,
“Surface-Activity of Solid Particles with Extremely Rough Surfaces”,
J. Colloid Int. Sci. **317**, 501-506 (2008).

11. M. Fujii, N. Hamochi, and T. Kato
“Surface Force of Polystyrene Latex Particles in Aqueous Anionic Amphipathic Solutions”
Jpn. J. Appl. Phys. **47**, 6146-6148 (2008).

II. 著書、総説等

01. M. Hato, H. Minamikawa, and T. Kato
“Sugar-Based Surfactants with Isoprenoid-type Hydrophobic Chains - Physicochemical and Biophysical Aspects”
in “*Sugar-Based Surfactants*”, C. C. Ruiz, Ed., 361-412, CRC Press (2008).

III. 学会発表、講演等

01.

2008. 1, /

02.

2008. 1,

03.

2008.1,

04.

2008.1,

05.

B. Medronho U. Olsson

2008. 1,

06.

2008.1,

07. T. Kato

“Structural Transition Induced by Shear Flow and Temperature Variation in the Lamellar Phase of Nonionic Surfactant/ Water Systems”
International Symposium on Engineering Micro-/Nano-Materials Based on Self-Assembling and Self-Organization (2008. 3, Tokyo)

08. S. Komura
 “Hydrodynamics in multicomponent biomembranes”
 International Workshop on Physical Phenomena in Multi-Component
 Membranes (2008.3, Tokyo)
09. Y. Sakuma, M. Imai, S. Komura, and T. Kawakatsu
 “Adhesion of binary vesicles containing negative spontaneous curvature lipids”
 International Workshop on Physical Phenomena in Multi-Component
 Membranes (2008.3, Tokyo)
10. N. Shimokawa and S. Komura
 “The phase behavior of mixed lipid membranes in presence of the rippled phase”
 International Workshop on Physical Phenomena in Multi-Component
 Membranes (2008.3, Tokyo)
11.
 63 2008.3,
12.
 63 2008.3,
13.
 88 2008. 3,
14.
 88 2008. 3, /
15.
 88 2008. 3, /
16.
 88 2008. 3,
17.
 88 2008. 3,
18.
 Si
 88 2008. 3,
19. S. Komura, Y. Hirose, and T. Kato
 “Adsorption dynamics in Pickering emulsions”
 International Symposium on Non-Equilibrium Soft Matter (2008. 7, Kyoto)
20. K. Yamada and S. Komura
 “The dynamics of order-order phase separation”
 International Symposium on Non-Equilibrium Soft Matter (2008. 7, Kyoto)
21. Y. Hirose, S. Komura, and T. Kato

“Adsorption of colloidal particles to interfaces”
International Symposium on Non-Equilibrium Soft Matter (2008. 7, Kyoto)

22. N. Shimokawa and S. Komura
“The phase behavior of mixed lipid membranes in the presence of the
rippled phase”
International Symposium on Non-Equilibrium Soft Matter (2008. 7, Kyoto)

23. M. Fujii, M. Ise, and T. Kato
“Surface Morphology and Optical Properties of Graft Polystyrene Layers”
International Symposium on Non-Equilibrium Soft Matter (2008. 7, Kyoto)

24.

2008. 7,

25.

2008. 8,

26. T. Kato
“Lamellar-To-Onion Transitions with Increasing Temperature under Shear Flow Studied by Rheo-SALS and
Rheo-SAXS”
17th International Symposium on Surfactants in Solution (2008. 8, Berlin).

27. M. Fujii, M. Ise, and T. Kato
“Surface Morphology and Optical Properties of Graft Polystyrene Layeres”
4th Vacuum and Surface Sciences Conference of Asia and Australia (2008. 8, Matsue)

28.

Rheo-SAXS /
61 2008. 9,

29.

61 /
2008. 9,

30.

61 2008. 9,

31.

61 2008. 9,

32.

61 2008. 9,

33.

61 2008. 9,

34.

61 2008. 9,

a)

b)

(TMU E-ring)

I. 原著論文

01. K. Hayakawa, J. Matsumoto, H. Shiromaru, Y. Achiba
“Isotope effect in dissociation of methanol dications produced by collision of Ar⁸⁺”
J. Phys. Conf. Ser. in press.
02. M.Goto, M. Togawa, S. Jinno, T. Takao, J. Matsumoto, H. Shiromaru, Y. Achiba, H. Tanuma, T. Azuma
“Absorption spectra of zinc phthalocyanine anions under radiative cooling”
Chem. Phys. Lett. **460**, 46-49 (2008).
03. Y.Nakayama, S.Fujiki, Y.Hirado, S.Shiozawa, H.Ishii, T.Miyahara, Y.Maniwa, T.Kodama,
Y.Achiba, H.Kataura, Y.Kubozono, M.Nakatake, T.Sato

“Photoemission study of electronic structures of fullerene and metallofullerene peapods”
Phys. Stat. Sol., **245**,2025-2028 (2008).

04. T.Mori, S.Sato, K.Omura, S.Yajima, Y.Tsuruoka, Y.Achiba, K.Ishibashi
“Formation of single electron transistors in single-walled carbon nanotubes with low energy Ar ion irradiation technique”
J. Vacuum. Science Tech.B, in press.
05. M. Lange, J. Matsumoto, A. Setiawan, R. Panajotovic', J. Harrison, J. C. A. Lower, D. S. Newman, S. Mondal, and S. J. Buckman
“Angle-resolving time-of-flight electron spectrometer for near-threshold precision measurements of differential cross sections of electron-impact excitation of atoms and molecules”
Rev. Sci. Instrum. **79**, 043105 (2008).

II. 総説等

III. 学会発表

01. Y.Achiba
“Selective growth of fullerene cap structure in the formation of carbon nano structures”(Invited)
213th ECS Meeting 2008.5 Phoenix, Az, U.S.A.
02. TMU E-ring
5 (AMO) 2008.6,
03. 33 2008.8,
04. 33 2008.8,
05. TMU E-ring
33 2008.8,
06. 33 2008.8,
07. TMU E-ring
33 2008.8,
08. “Chiral control ; possible or not possible?”()
35 (2008.8,)
09. T.Nakayama, A.Inoue, K.Yokoi, Y.Tsuruoka, T.Kodama and Y.Achiba
“Temperature dependence in the diameter distributions of SWNTs revealed by optical absorption measurements in solution”
35 (2008.8,)

10. N.Takamizu, Y.Ohnishi, K.Urata, S.suzuki, H.Nagasawa, and Y.Achiba
 “Optical properties of SWNTs with very small diameter
 35 (2008.8,)
11. T.Mizusawa, S.Suzuki, Y.Achiba
 ”Dispersion of single-walled carbon nanotubes made by using arc-burning Technique in nitrogen
 atmosphere”
 35 (2008.8,)
12. M. Goto, T. Kodama, J. Matsumoto, H. Shiromaru, Y. Achiba, T. Majima, H. Tanuma, T. Azuma
 “Vis/near-IR excitation spectra of laser desorbed C₆₀”
 14th International Symposium on Small Particles and Inorganic Clusters (ISSPIC XIV) (2008.9 Valladolid,
 Spain)
13. A.E.K. Sunden, M. Goto, J. Matsumoto, H. Shiromaru, H. Tanuma, T. Azuma, J.U.Andersen, S.E. Canton,
 K.Hansen
 “Measurement of absolute cooling rates of fullerene ions in an electrostatic storage ring”
 14th International Symposium on Small Particles and Inorganic Clusters (ISSPIC XIV) (2008.9 Valladolid,
 Spain)
14. Kenichi Hayakawa, Jun Matsumoto, Haruo Shiromaru, Yohji Achiba
 “Isotope effect in dissociation of methanol dications produced by collision of Ar⁸⁺”
 14th International Conference on the Physics of Highly Charged Ions (2008.9, Chofu)
- 15.
- 2008 2008.9
16. TMU E-ring A
 2008 2008.9
- 17.
- 2 (2008.9
- 18.
- 2 (2008.9
- 19.
- 2 (2008.9
- 20.
- 2 2 (2008.9
21. Liu Suet Yi Alnama Koutayba Lee Yuan-Pern,
 “Construction of VUV photoelectron imaging apparatus with He(I) light source”
 2 (2008.9
22. Y. Achiba
 “Chirality control and production of SWNT with a single chirality”
 The 5th Japan-Korea Symposium on Carbon Nanotubes (2008.11, Busan,Korea)

23. Haruo Shiromaru
 "Spectroscopy of molecular anions in a storage ring at TMU"
 The 8th Asian International Seminar on Atomic and Molecular Physics (AISAMP8) (2008.11 Perth, Australia)
24. Jun Matsumoto, Ken-ichi Hayakawa, Haruo Shiromaru and Yohji Achiba
 "Isotope effect in dissociation of methanol dications produced by multiply charged ions"
 The 8th Asian International Seminar on Atomic and Molecular Physics (AISAMP8) (2008.11 Perth, Australia)
25. Haruo Shiromaru
 "Laser-merging experiments of molecular ions stored in an electrostatic ion storage ring"
 - Charging Molecules: Fundamental Chemical Physics and Analytical Applications - (2008.12,)
26. Y.Achiba, T.Nakaya, A.Inoue, Y.Ohnishi, T.Kodama and T. Okazaki
 "Highly Selective Production of Single-Wall Carbon Nanotubes by Laser Vaporization method"
 36 (2009.3,)
27. S.Suzuki, K.Hara, T.Fujita, T.Mizusawa, T.Okazaki, and Y.Achiba
 "Purification of Single-walled Carbon Nanotubes Generated with Arc-burning Apparatus by Utilizing Mono-dispersion Technique"
 36 (2009.3,)
28. K.Hansen, A.E.K.Sunden
 C₆₀⁻
 36 (2009.3,)
29. 89 2009.3,
30. 8 89 2009.3,
31. TMU E-ring O₂⁺
 64 2009.3,

I 原著論文

01. Y. Honda, A. Kurihara, M. Hada, H. Nakatsuji
"Excitation and Circular Dichroism Spectra of (-)-(3a*S*,7a*S*)-2-chalcogena- *trans*-hydrindans (Ch=S, Se, Te): SAC and SAC-CI Calculations"
J. Comp. Chem., **29**, 612-621 (2008).
02. M. Kujime, C. Izumi, M. Tomura, M. Hada, H. Fujii
"Effect of Tridentate Ligand on Structure, Electronic Structure, and Reactivity of Copper(I) Nitrite Complex: Role of Conserved Three-Histidines Ligand Environment of Type-2 Copper Site in Copper Containing Nitrite Reductase"
J. Am. Chem. Soc., **130**, 6088-6098 (2008).
03. W. Nakanishi, S. Hayashi, K. Narahara, D. Yamaki, M. Hada
"Evaluation of Electron Population Term for $\langle r_{se}^{-3} \rangle_{4p}$, $\langle r_{rs}^{-3} \rangle_{3p}$, and $\langle r_o^{-3} \rangle_{2p}$: How do HOMO and LUMO Shrink or Spread Depending on Nuclear Charges?"
Chemistry A European J., **14**, 7278-7284 (2008).
04. M. Abe, T. Suzuki, Y. Fujii, M. Hada
"An Ab initio study based on a finite nucleus model for isotope fractionation in the U(III)-U(IV) exchange reaction system"
J. Chem. Phys., **128**, 1443091-1443096 (2008).
05. T. Yoshizawa, M. Hada
"Relativistic quantum-chemical calculations of magnetizabilities of noble gas atoms using the Douglas-Kroll-Hess method"
Chem. Phys. Letters, **458**, 223-226 (2008).
06. W. Nakanishi, S. Hayashi, K. Narahara, M. Hada
"Contributions from atomic p(Se), d(Se), and f(Se) Orbitals to Absolute Paramagnetic Shielding Tensors in Neutral and Charged SeHn and Some Oxides, Together with the Effect of Methyl and Halogen Substitutions on $\chi^p(\text{Se})$ "
Chemistry A European J., **14**, 9647-9655 (2008).
07. J. Seino, M. Hada
"Examination of accuracy of electron-electron Coulomb interactions in two- component relativistic method".
Chem. Phys. Letters, **461**, 327-331 (2008).
08. M. Abe, T. Suzuki, Y. Fujii, M. Hada, K. Hirao
"An ab initio molecular orbital study of the nuclear volume effects in uranium isotope fractionations"
J. Chem. Phys., **129**, 1643091-1643097 (2008).
09. D. Yamaki, M. Suzuki, M. Hada
"Natural Orbital Analysis of Difference Density Matrix of Cyanide Fe(III) Porphyrins"
AIP Conf. Proc., **1046**, 68-71 (2008).

10. Y. Honda, M. Hada

"Quantum-Chemical Calculations of Natural Circular Dichroism"

Computing Letters, in press.

11. T. Yoshizawa, M. Hada

"Relativistic and Electron-Correlation Effects on Magnetizabilities Investigated by the Douglas-Kroll-Hess Method and the Second-Order Moller-Plesset Perturbation Theory"

J. Comp. Chem., in press.

12. K. Hashimoto, K. Daigoku

"Ground and low-lying excited states of $\text{Na}(\text{NH}_3)_n$ and $\text{Na}(\text{H}_2\text{O})_n$ clusters: Formation and localization of solvated electron"

Chem. Phys. Letters, in press.

II 著書、総説等

01. N. Koga, T. Matsushita, K. Takano, K. Hashimoto, M. Hada, et al.

"Quantum Chemistry Literature Data Base II Bibliography of *Ab Initio* Calculations for 2005"

J. Comp. Chem. Jpn., **5**, 231-655 (2007). (実際出たのは 2008.11)

III 学会発表、講演等

01. M. Abe, T. Suzuki, Y. Fujii, M. Hada

"Ab Initio Quantum-Chemical Calculations of Isotope Fractionation in the U(III)–U(IV) Exchange Reaction"

Gordon Research Conferences, 2008 2 17 22 , Ventura (California, USA)

02.

U(III)–U(IV)

6 2008 3 5

03.

11 2008 5 22 24

04.

11 2008 5 22 24

05.

11 2008 5 22 24

06.

11 2008 5 22 24

Picture Change Error

07.

L-

11 2008 5 22 24

08.

11 2008 5 22 24

21.							
2		2008	2008	9	24	27	
22.							
2	DKH	2008	2008	9	24	27	
23.							
2	,	L-	CD	2008	9	24	27
24.							
	π		NMR				
		2008		2008	9	27	28
25.							
		2008		2008	9	27	28
26.							
24	—	2008	6	2	4		
27.							
2	Na	2008	2008	9	24	27	

“

”

20

20